在日中国人高齢者の福祉住環境に関する研究

主査　丁　文磊*1
委員　松原　茂樹*2

本研究では，20 人の在日中国人高齢者を対象に，アンケート，インタビュー調査及び彼らの住宅と近隣での現地調査を通して，在日中国人高齢者の住宅環境，近隣環境，社会環境の実態を明らかにした。また介護環境について，郵送アンケート調査を通して，日本における中国語の対応が可能なデイサービスセンターの運営と利用の実態の全国的な傾向を把握し，その全体像を明らかにした。さらに，一つの在日中国人向けのデイサービスセンターと一つの日本人向けのデイサービスセンターでの行動観察調査を通して，利用者の一日の生活展開と滞在様態，施設の空間特性について考察して比較し，中国人高齢者向けの介護施設に関する建築計画的知見を得た。

キーワード：１）在日中国人高齢者，２）高齢中国帰国者，３）福祉住環境，４）住宅環境，５）近隣環境，６）社会環境，７）介護環境，８）エイジング・イン・プレイス

STUDY ON THE LIVING ENVIRONMENT OF CHINESE ELDERLY PEOPLE IN JAPAN

Ch. Wenlei Ding
Mem. Shigeki Matsubara

Throughout questionnaire and interview to 20 Chinese elderly people in Japan and field survey in their homes and neighborhood, the actual conditions of their home environment, neighborhood environment, social environment were clarified. In addition, by the mail questionnaire to the day-service-centers that can provide Chinese service in Japan, the nationwide conditions of operation and use were grasped. Furthermore, through observation surveys at one day-service-center for Chinese elderly in Japan and one day-service-center for Japanese elderly, the users' daily life, using styles and the spatial characteristics were compared and architectural planning about nursing care facilities for the Chinese elderly were obtained.

1.　研究背景

法務省入国管理局の統計により，2019年６月の外国人の数は2,829,416人である。その中，一番多いのは中国人で，848,201人であり，外国人の30％を占めている[文1)]。在日中国人のうち，60歳以上の人が43,882人，65歳以上の人が26,517人となっている[文1)]。

また，第二次世界大戦後，中国特に中国東北部（満州）に多くの日本人が戦後の混乱によって帰国できず，中国に長期間残留を余儀なくされた。1945年８月９日時点で，満13歳以上の男性・女性たちを「中国残留婦人等」，13歳未満で孤児となり中国の養父母に育てられた人々を「中国残留孤児」と呼び，それらをまとめて「中国残留邦人」（一世）と総称している[注1)]。中国残留邦人（一世）から1945年８月10日以降に生まれた子どもを二世と呼んでいる。1972年，日中国交が正常化して，日本政府は中国残留邦人の帰国問題に取り組み始め，1975年から中国残留邦人は徐々に日本に帰国し始めた[文2)]。帰国した中国残留邦人の中には中国で家族を作った人もおり，その家族を含めて帰国した人たちを「中国帰国者」と呼んでいる。日本政府の統計により，2021年２月末までに，国費[注2)]で日本に永住帰国した中国残留邦人の人数は6,724人であり，家族を加えると，総数は20,911人である[文3)]。さらに，私費で帰国した中国帰国者は日本全国で約10万人に達すると推測される[注3)]。2015年，厚生労働省の報告書により，中国残留邦人一世の平均年齢は76歳であり，配偶者の平均年齢は72.6歳である。さらに，中国残留邦人二世も多くは65歳以上であり，高齢化の問題がある[文4)]。

本研究では，高齢中国帰国者と在日中国人高齢者を「在日中国人高齢者」として調査を進める。その理由は，１）ほとんどの中国帰国者は日本に来た後，まだ中国国籍を保留し，日本の定住または永住ビザを持っている。国籍から判断すると，彼らはまだ中国人である。２）2007年から実施された「中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律」（以下新支援法）により，帰国者

*1 大阪大学工学研究科地球総合工学博士後期課程　*2 大阪大学　准教授　博士（工学）

一世に対する生活，住宅，医療などの支援があるが，帰国者二世には一切適用されない。二世は普通の在日中国人と同じで，特別な支援政策がない。

在日中国人高齢者にとって，母国から日本への移住は，大きな環境変化をもたらす。日本の文化背景,生活習慣,社会システムは母国と異なるため，住環境に対するニーズも日本の高齢者とは異なっている。これらの背景から，在日中国人高齢者の住環境を研究することは重要である。在日中国人高齢者が日本社会に適応し,「エイジング・イン・プレイス」[注4)]という目標を達成しながら地域に住み続けるためにまずは現状を把握する必要がある。

2. 既往研究と本研究の位置づけ

日本の建築分野では，高齢のエスニック・マイノリティを対象とした研究について,在日韓国人･朝鮮人の特別養護老人ホームの居住環境に関する研究のみがある[文5)]。また在日外国人に関する研究は公営団地等のコミュニティ形成や居住環境に関する研究があり，在日外国人労働者を対象にしている[文6)][文7)]。

エイジング・イン・プレイスについて，在日中国人高齢者を対象とした研究に注目する。熊原ら[文8)]は，中国帰国者に対し日本に長期的な適応の促進を目指し，かねてより社会経済的側面，文化的差異，母文化の保持といった側面からの支援が重要視されてきたと指摘している。王ら[文9)]は，高齢中国帰国者が安心して老後生活を送れるように，母語や母国文化，風習や習慣などに配慮し，それを介護環境のなかに取り入れ，在住外国人高齢者も日本人高齢者と同質な介護サービスかが受けられるように介護環境を整えていく必要があると指摘している。

本研究において，在日中国人高齢者にとってのエイジング・イン・プレイスとは,「母語（日本語能力も）や母国文化，風習や習慣などに配慮する必要性から社会環境も重視しつつ,さらに介護や看取りも視野に入れながら，人生の終末期にできる限り住み慣れた現在の自宅や地域での継続した生活を可能にする」と定義する。このように在日中国人高齢者の住環境の実態は把握されておらず，建築計画分野から住環境に焦点を当てた研究に本研究は取り組む意義がある。

3. 研究の目的と研究の方法

3.1 研究の目的

本研究の目的は以下の４点である。１）在日中国人高齢者の住宅環境，近隣環境，社会環境及び介護環境（これをまとめて「福祉住環境」と呼ぶ）を調査し，在日中国人高齢者の住環境の現状を把握する。２）日本における中国語の対応が可能なデイサービスセンター（以下，デイと表記）の運営と利用の実態の全国的な傾向を把握しその全体像を明らかにする。3）中国語の対応が可能なデイと日本人高齢者向けのデイでの詳細な観察調査を通しての生活展開と利用者の滞在様態，施設の空間特性について考察して比較し，中国語の対応が可能な介護施設に関する建築計画的知見を得る。４）上記の住環境実態を把握し，在日中国人高齢者にとって「エイジング・イン・プレイス」を実現するための基礎的資料を得る。

3.2 研究の方法

1）住宅環境，近隣環境と社会環境について

大阪府在住の65歳以上の在日中国人高齢者20人を対象に，自宅とその近隣で現地調査を実施し，彼らとその家族に対するアンケートとインタビューを行った。調査は訪問介護事業所のケアマネジャーの協力の下で調査を行い,ケアマネジャーと一緒に調査対象の家に訪問した。調査は，主に中国語を使用した。ケアマネージャーを通して協力を依頼したため，居住地域は同じではなく，20名の対象者は大阪府の6市に居住している。そのことにより多様な住環境の結果が得られると考えられる。

2）介護環境について

日本国内にある全ての中国語の対応が可能なデイ 115ヶ所に対する郵送アンケート調査を実施し，また，在日中国人に向けのデイサービスセンターと日本人向けのデイサービスセンターの違いを把握するために，２つのデイサービスセンターでの行動観察調査を行った。調査の内容，目的，方法と調査時間は**表 3-1** に示す。

表 3-1 調査の概要

アンケートとインタビュー調査	目的	20人の対象者の基本属性を把握し，日常生活の現状と過去の人生ストーリーを了解する。
	対象	大阪府に在住している20人の中国人高齢者とその家族。
	項目	性別，年齢，要介護度，来日原因と年数，国籍，日本語能力，教育背景，家族，社会的つながり，在宅活動，外出頻度など。
	方法	アンケートとインタビュー
	時間	2019.11-2021.08（1人の対象者の平均調査時間は2時間）
現地調査	目的	20人の対象者の住宅の属性を把握し，近隣環境の現状を理解する。
	対象	20人の在日中国人高齢者の住宅とその近隣コミュニティ。
	項目	住宅タイプ，面積，平面配置，バリアフリーの状況など。近隣の利便性（スーパー，病院，公園，駅，親戚と友人の家など）
	方法	撮影，測定，描画，記録など。
	時間	2019.11-2021.08（1人の対象者の平均調査時間は2時間）
郵送アンケート調査	目的	既存の中国語の対応が可能なデイサービスセンターの運営状況，施設建築状況，利用者の基本属性を把握する。
	対象	日本国内にある全ての中国語の対応が可能なデイ115ヶ所。
	項目	建築属性，サービスの内容，定員，利用者数，スタッフ数，利用者属性，スタッフ配置，介護の問題，現在困っていることなど。
	方法	対象施設への郵送アンケート。
	時間	アンケート発送：2021年2月8日，回収締め切り：2021年3月1日。
行動観察調査	目的	中国人向けのデイと日本人向けのデイでの一日の生活の流れ，活動の種類，活動グループの規模，滞在場所を把握する。
	対象	大阪府にある2つのデイサービスセンター（中国人向けのデイが1ヶ所，日本人高齢者向けのデイが1ヶ所）
	項目	調査日利用者の属性，一日の生活の流れ，活動の種類，利用者の滞在場所，空間利用のパターンなど。
	方法	通所事業時間において，10分毎に記録及び写真撮影を行う。
	時間	調査の時間：2021年3月と2021年7月

4. 住宅環境，近隣環境と社会環境

4.1 20 人の研究対象の属性

20 人の対象者の属性を**表 4-1** に示す。女性は 12 人，男性が８人であり，中国帰国者が 18 人，在日中国人が２人である。平均年齢は 77 歳で，最年少が 65 歳，最高齢

表4-1 20人の研究対象の属性

調査対象の記号	性別	年齢	要介護度	国籍	アイデンティティー	来日原因	来日年数	今の家に住む年数	独居・同居	日本語能力	教育背景	中国にいる時の仕事	日本に来た後の仕事
[1]	女性	97	要介護 5	日本	日本人	帰国者一世	25	18	独居	良い	中学	農民	無職
[2]	男性	71	要介護 2	中国	中国人	帰国者二世	23	8	妻と同居	挨拶程度	中学	医者	工場
[3]	女性	88	要介護 2	日本	日本人	帰国者一世	25	6	独居	日常簡単な対話程度	小学	農民	無職
[4]	女性	91	要介護 2	中国	日本人	帰国者一世	30	7	独居	日常簡単な対話程度	小学	会社員	無職
[5]	女性	71	要介護 3	中国	中国人	帰国者二世	17	13	夫と同居	話せない	文盲	農民	工場
[6]	女性	68	要介護 4	中国	中国人	帰国者二世の配偶	10	9	夫と息子の家族と同居	話せない	小学	農民	無職
[7]	女性	80	要介護 2	中国	中国人	帰国者一世	28	7	独居	挨拶程度	高校	会社員	無職
[8]	男性	73	要介護 3	中国	中国人	帰国者二世	24	4	妻と同居	話せない	文盲	農民	工場
[9]	男性	81	要介護 2	中国	中国人	帰国者二世	12	2	独居	話せない	文盲	農民	無職
[10]	男性	76	要介護 2	中国	中国人	帰国者二世	25	3	妻と同居	挨拶程度	小学	農民	無職
[11]	男性	65	要介護 1	中国	中国人	帰国者二世	18	8	妻と同居	話せない	中学	会社員	工場
[12]	男性	80	要介護 3	中国	中国人	帰国者一世	24	24	妻と同居	話せない	中学	会社員	無職
[13]	女性	80	要介護 3	中国	中国人	帰国者一世の配偶	25	25	独居	話せない	小学	無職	無職
[14]	男性	71	要支援 2	中国	中国人	帰国者一世	23	6ヶ月	妻と同居	話せない	小学	農民	工場
[15]	女性	86	要介護 2	中国	中国人	帰国者一世の配偶	30	7	息子と同居	日常簡単な対話程度	大学	教師	工場
[16]	女性	66	要介護 1	中国	中国人	帰国者二世の配偶	20	1	夫と同居	話せない	文盲	農民	工場
[17]	女性	67	要介護 1	中国	中国人	帰国者一世	31	6	娘の家族と同居	日常簡単な対話程度	中学	会社員	工場
[18]	女性	76	要介護 2	中国	中国人	帰国者一世	19	11	独居	良い	中学	無職	無職
[19]	男性	80	要支援 1	中国	中国人	日本に就職	37	3ヶ月	妻と同居	日常簡単な対話程度	大学	料理人	料理人
[20]	女性	67	要支援 1	中国	中国人	子供は日本に就職	10	8	夫と同居	良い	中学	農民	工場

が 97 歳である。平均要介護度は要介護 2.1 である。18 人の中国帰国者の中，日本国籍に変更した人は２人で，16 人は中国国籍を保留したまま日本の永住権または定住ビザを持っている。日本在住の平均年数は 22.8 年であり，現在の家の居住平均年数は 8.8 年である。７人がひとりで暮らし，それ以外の人が配偶者または子供の家族と同居している。

日本語能力について，３人は日常会話が問題ない程度で，それ以外はゆっくりであれば不自由なく会話が可能なレベルからできないレベルまでさまざまである。教育歴について，４人は学校で教育を受けたことがなく，６人が小学校卒業まで，8 人は中学校または高校卒業まで，大学卒業は２人であった。中国在住時，10 人が農民，２人が無職であり，比較的低所得の人が多かった[注5)]。日本に来た後，10 人が仕事をしていなく，９人が工場で働いていた。

4.2 住宅環境

1）住宅の基本情報

対象者の住宅情報を**表 4-2** に示す。14 人の対象者は市営住宅や府営住宅の公営住宅に住んでいる。家賃が安い木造文化住宅や賃貸アパートに各２人が住み，２人は子供世代と戸建住宅に住んでいる。平面配置について，14 人はリビングルームがない 2K，2DK，3K などの類型であり，毎日の活動はすべて寝室やキッチン/ダイニングルームで行われる。住宅の平均面積は 53 ㎡で，大多数の住宅の面積が 60 ㎡以下である。住む階数は，９人の対象者が２階以下に住み，11 階以上に住む人が１人だけである。また，半分以上の対象者の家はバリアフリー設備がない。

2）在宅の日常活動と在宅ライフスタイル

図 4-1 に自宅での活動を示す。対象者が家で最も多く行う活動は簡単な家事である。最も多く行う娯楽は中国のドラマを見ることである。家で簡単な運動をする対象者は３人，ペットを飼っている人は２人であった。室内の空間の使用状況と日常活動を**図 4-2** に示す。

表 4-2　20 人の研究対象の住宅の基本情報

調査対象の記号	住宅の類型	平面配置	面積	住む階数／総階数	築年数	バリアフリーの状況
[1]	文化住宅	2K	30㎡	1/2	不明	ある
[2]	文化住宅	2K	37㎡	1/2	1970	なし
[3]	賃貸マンション	2K	39㎡	3/8	1989	ある
[4]	市営住宅	2DK	48㎡	1/15	1989	ある
[5]	府営住宅	2K	36㎡	4/11	1994	なし
[6]	一戸建て	4LDK	108㎡	1/4	不明	なし
[7]	市営住宅	3DK	58㎡	4/15	1995	なし
[8]	府営住宅	3DK	62㎡	20/31	1999	なし
[9]	市営住宅	3K	39㎡	4/15	1972	なし
[10]	府営住宅	2K	36㎡	3/5	1977	なし
[11]	市営住宅	3K	42㎡	8/12	1998	なし
[12]	府営住宅	2DK	38㎡	2/5	1977	ある
[13]	市営住宅	3DK	62㎡	3/9	1995	ある
[14]	賃貸マンション	2LDK	53㎡	1/3	1997	なし
[15]	市営住宅	3DK	54㎡	8/14	不明	ある
[16]	市営住宅	3DK	48㎡	4/9	1982	なし
[17]	一戸建て	4LDK	120㎡	1/2	2014	なし
[18]	市営住宅	2LDK	59㎡	1/7	2010	ある
[19]	市営住宅	2DK	43㎡	5/10	1971	ある
[20]	府営住宅	2DK	40㎡	2/5	1977	なし

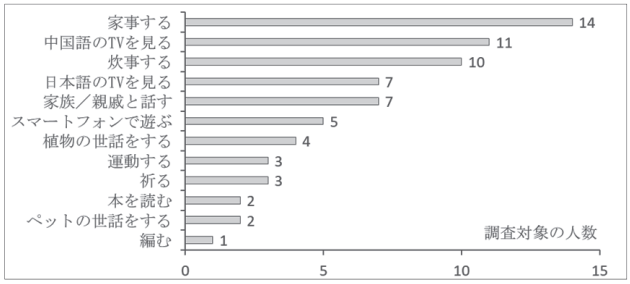

図 4-1　20 人の対象者の在宅の日常活動

20 人の対象者の在宅ライフスタイルは，１ベッドルーム中心（６人），２ベッドルーム中心（４人），ベッドルームとリビング・ダイニングルーム混在（10 人）の３タイプに分類できる（**図 4-2**）。

１ベッドルーム中心のライフスタイルでは，高齢者がほとんどの時間を一つのベッドルームで過ごし，睡眠，食事，リラックスなどの日常活動をベッドルームで行う。２ベッドルーム中心のライフスタイルでは，彼らの日常

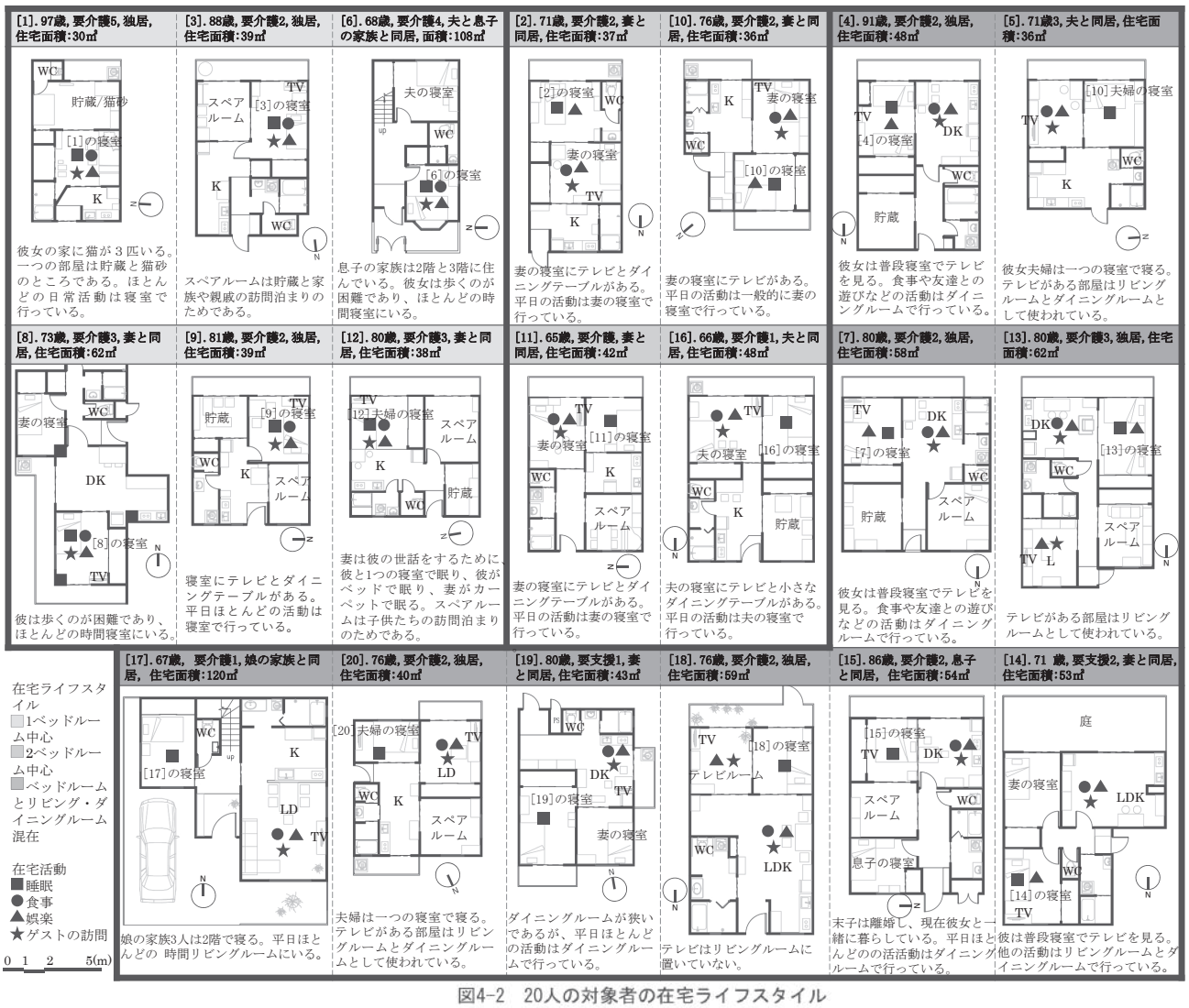

図4-2　20人の対象者の在宅ライフスタイル

活動を通常二つのベッドルームで行う。ベッドルームとリビング・ダイニングルームのライフスタイルでは，高齢者は通常ベッドルームで寝るが，それ以外の時間はリビング・ダイニングルームに滞在する。要介護度との関係を見ると，要介護４以上の２人は１ベッドルーム中心のライフスタイルである。

3）中国風の装飾

インテリアデザインや装飾は，所有者の文化的背景を反映している。本研究の在日中国人高齢者のほとんどは，インテリア改修を行う機会や資金援助がないため，装飾が中国の背景とのつながりを表現する唯一の因子になる。対象者の家の中国式装飾の種類は非常に単純であり，主な中国風の装飾は中国のカレンダー，中国の結び目，中国のカーペット，中国の絵画である（**図 4-3**）。

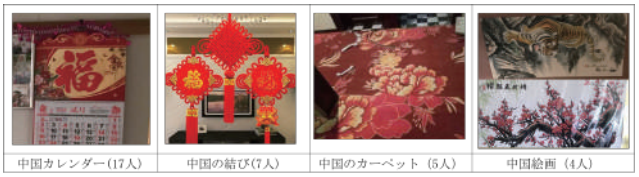

図 4-3　20 人の対象者の家の主な中国風装飾品

4）住宅環境に対する満足度

住宅環境の満足度について，満足が８人，やや満足が６人，やや不満足が５人，不満足が１人の回答であった。その理由について，多くの対象者が生活水準や経済状況が低い当時の中国の住宅状況と現在の住宅状況を比べて良くなったことや家賃が低額であることを挙げている。不満足または生活上の不便な点を**図 4-4** に示す。「バリアフリーがない」が最も多く，次いで，「空間が狭い・リビングルームがない」「クローズドキッチンではない」「古

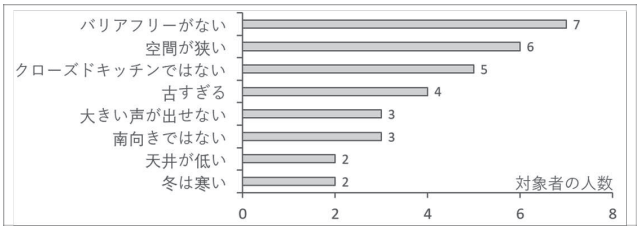

図 4-4　住宅環境に対する不満足点

すぎる」「大きい声が出せない」の順である。「バリアフリーがない」については，対象者が介護に係るリフォームの助成について情報を知らないためである。「クローズドキッチンではない」について，ほとんどの対象者は毎日中国料理を作っているので油煙が強く，換気性能が不足し，湯煙が部屋に充満するためである。

4.3　社会環境

社会環境とは，高齢者の社会的つながりと参加する社会的活動を指す。Bekhet, A. K.の研究によると，社会活動に参加し，社会的つながりを維持または増やしている高齢者は，孤立した高齢者よりも健康レベルの低下の進行が遅いことが明らかにされた[文10)]。

表 4-3 は，20 人の対象者の全ての社会的つながりを示している。対象者の社会的つながりにおいてはスーパーや飲食店の店員の一部を除き中国語でコミュニケーションしている。在日中国人高齢者は日本人の友達がつくれず，日本人の隣人との交流がない。在日中国人や中国帰国者の隣人との社会的つながりを持つ人が８人いる。３人の対象者がかつて日本人向けのデイサービスセンターに行っていたが，日本語の環境に適応できず，最終的に在日中国人高齢者向けのデイサービスセンターに行くようになった[注6)]。

Mari Smith [文11)]の研究によると，対象者の社会的つながりは親密さに基づいて５つの次元に分けることができ，これを参考に20人の対象者の社会的次元を**図 4-5** に示す。対象者の社会的つながりのうち，家族が最も近い関係である。最も遠い関係である買い物する時の営業員や飲食店の店員などの見知らない人との交流は，日本社会への参加度を表している。**表 4-3** に示すように，20 人の対象者の中で最も多い社会的なつながりは家族であり，全員が該当する。

図 4-6 に示すように，社会的つながりの次元と種類を組み合わせて，20 人の対象者の社交程度を強い，やや強い，やや弱い，弱いの４つのレベルに分類した。
社交程度が弱い対象者は６人がいて，家族と中国語を話すヘルパーの２次元までであり，家族や中国語を話すヘルパー以外の社会的つながりがない。６人の対象者の社交程度はやや弱いであり，彼らの社会的つながりの次元は３以上であるが，６人とも介護に関して中国語を話すヘルパーか在日中国人高齢者向けのデイサービスの一方か，もしくは両方に社会的つながりを持っている。それ以外の社会的つながりが少ない。３人の対象者の社交程度は強く，親戚はいないが，家族や友人，アソシエーション，デイサービスや見知らない人と社会的つながりがある。

表 4-3　20 人の研究対象の社会的つながり

社会的つながり	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]	[16]	[17]	[18]	[19]	[20]
家族	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中国人親戚	x	x	x	○	x	x	x	x	x	x	○	x	x	x	x	x	○	○	x	○
中国人友達	x	○	x	○	x	x	x	x	x	○	○	○	x	x	x	x	x	○	x	○
日本人友達	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	○
中国人隣人	x	○	○	○	x	x	x	x	x	○	○	○	x	○	x	x	x	○	x	○
日本人隣人	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
中国人ヘルパー	○	○	○	○	○	x	○	○	○	x	x	○	○	○	○	x	x	○	○	x
社会団体	x	○	x	○	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	○	x	x
中国人向けのデイ	x	○	x	○	x	x	x	○	x	○	x	x	x	○	x	○	○	○	x	x
店員など	x	○	○	○	○	x	x	x	x	○	○	○	x	○	x	○	○	○	○	○

＊デイ　デイサービスセンター，○ある，x なし．

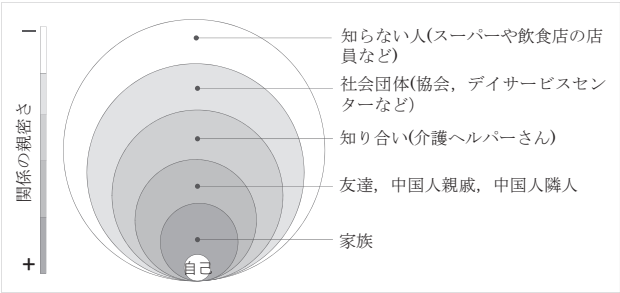

図 4-5　20 人の対象者の社会的つながりの五つの次元

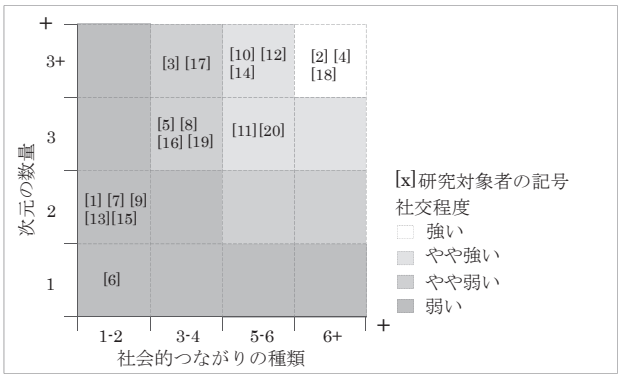

図 4-6　20 人の対象者の社交程度の判定基準

4.4　近隣環境

1）近隣環境の生活利便性

近隣環境の範囲を高齢者の身体機能に配して，彼らが自宅から半径500mで，徒歩10分程度のエリアと定義し，調査対象者の近隣環境での活動状況を示す。「エイジング・イン・プレイス」を実現するために在日中国人高齢者にとって，身体機能が低下していっても，近隣環境の生活利便性が充実し，アクセスできることが重要である。

公共交通，買い物，医療・福祉施設，交友・レクリエーションの公園[注7)]等の生活利便性について評価する。Google map という地理的情報ならびに現地調査を用いて，20 人の対象者の家から半径 500m範囲内の生活利便施設を調査した結果を**表 4-4** に示す。近隣の生活施設の数量をみると，20 人の対象者のうち，対象者［2］［3］［11］［13］［18］の近隣環境の生活利便性が高い。

2）近隣での活動，外出頻度とコミュニティーライフスタイル

対象者の近隣での主な行動と１週間の外出頻度を**表 4-5** に示す。８人の対象者が週に５回以上出かけ，７人

表 4-4　20 人の研究対象の近隣での生活利便施設と利便性

生活利便施設	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]	[16]	[17]	[18]	[19]	[20]
電車駅	○	X	○	○	○	○	○	X	X	X	○	X	○	X	X	○	X	X	X	X
バス停	○	X	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X	○	X
コンビニ	○	○	○	X	○	○	○	○	X	X	○	X	○	○	○	○	X	○	X	○
スーパー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X	○	X	○	○	○	○	X	○	X	X
中華物産店	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	○	X	X	X	○	X	X
飲食店	○	○	○	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X	○	○	X	○	○	○
病院	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	○	X	X	X	X	X
クリニック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X	○	X	○	○	○	○	X	○	X	○
街区公園	X	○	○	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X	○	○	○
近隣公園/地区公園	X	○	○	X	X	X	X	○	○	X	○	X	○	X	X	○	○	○	X	X
友人の家	X	○	○	○	X	X	X	X	X	○	○	○	X	X	X	X	○	○	○	X
子供や親戚の家	X	○	○	○	X	○	X	X	○	○	○	X	○	X	X	X	○	○	X	X
利便施設の数量	7	9	9	6	7	8	7	7	7	5	10	4	9	6	7	8	4	9	4	4
近隣の利便性	M	H	H	M	M	M	M	M	M	L	H	L	H	M	M	M	L	H	L	L

＊○ ある，X なし，H: 高い，M:中くらい，L: 低い.

表 4-5　20 人の研究対象の近隣での活動種類と外出頻度

近隣での活動	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]	[16]	[17]	[18]	[19]	[20]
散歩する	X	○	○	○	○	X	○	X	○	○	○	○	○	○	X	○	○	○	○	○
運動する	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	○	X	X	X	X	○	X	○	X	X
買い物する	X	○	X	○	○	X	○	X	X	○	○	○	X	○	X	○	○	○	○	○
隣人を訪ねる	X	○	○	○	X	X	X	X	X	○	○	○	X	○	X	X	X	○	X	○
子供や親戚の家を訪問する	X	○	○	○	○	X	X	X	X	X	○	X	○	○	X	X	○	○	X	○
友達と遊ぶ	X	○	X	○	X	X	X	X	X	○	○	○	X	○	X	X	X	○	X	○
社会活動に参加する	X	○	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	○	X	X
R-cに行く／近くのD-s-cで入浴する	○	○	○	X	X	○	X	X	○	X	X	X	○	X	X	X	X	X	X	X
活動の種類	2-	5+	4-5	5+	2-3	2-	2-3	2-	2-3	4-5	5+	4-5	2-3	4-5	2-	2-3	2-3	5+	2-3	4-5
外出頻度	2-3	5+	5+	5+	2-3	2-3	2-3	2-	2-3	4-5	5+	4-5	4-5	4-5	2-	5+	5+	5+	4-5	5+

＊○ ある，X なし．　R-c:リハビリテーションセンター，D-s-c: デイサービスセンター

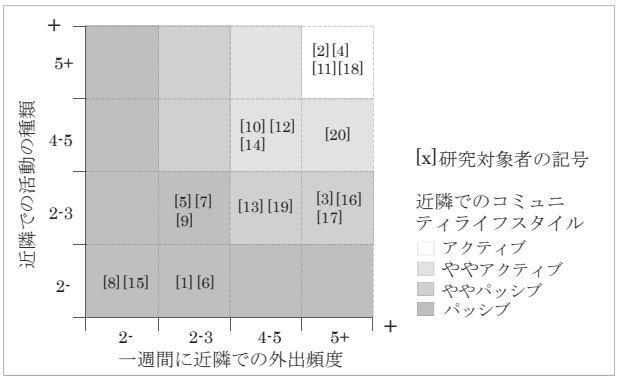

図 4-7　20 人の対象者の近隣でのコミュニティーライフスタイルの判定基準

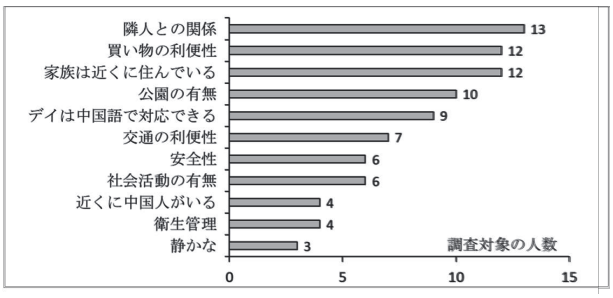

図 4-8　近隣環境に関する重要視するポイント

が週に３回未満の外出である。最も多くの外出が散歩であり，隣人への訪問は９人，子どもや親戚への訪問が 10 人，友人と遊ぶ外出が８人であった。外出の頻度と近隣の行動の多様性に基づいて，近隣のコミュニティライフスタイルを，アクティブ（４人），ややアクティブ（４人），ややパッシブ（７人），パッシブ（７人）の４つのタイプに分類した（**図 4-7**）。

「アクティブ」タイプとは，高齢者がよく出かけて，他の人と中国語でコミュニケーションをとり，積極的に活動に参加するというタイプである。「ややアクティブ」タイプとは，高齢者が出かけることや他の人とのコミュニケーションが好きであるが，近隣での行動の多様性や外出の頻度が「アクティブ」タイプより少なくなるタイプである。「ややパッシブ」タイプとは，高齢者が買い物や病院に行くことなど生活に必要な行動以外，外出や他の人とのコミュニケーションをしないタイプである。「パッシブ」タイプとは，高齢者がほとんど外出しなく，他の人とのコミュニケーションがあまりないタイプである。

対象者［2］［3］［4］らのように，近隣環境に中国語でコミュニケーションが取れる友達や家族が住んでいることが外出頻度に影響している。［8］［15］は近隣に外出をしていない。近隣に家族や友人が住んでいないことや，近隣に購買施設があり，歩行能力もあるが日本語が話せず同居する家族が買い物を行っている。社会的つながりは家族および中国語を話すヘルパーや中国帰国者向けのデイサービスだけである。

3）近隣環境に関する重要視するポイント

対象者の全員は現在の近隣環境に満足している。対象者が近隣環境において重要視するポイントに関するアンケート結果を**図 4-8** に示す。「隣人との関係」の回答が最も多く，次いで，「買い物の利便性」「家族が近くに住むこと」「公園の有無」「中国語が対応できるデイサービス」の順である。近隣環境では隣人との関係を最も重要視しているが，実際には隣人との関係を持っていないことが明らかになった。

5.　介護環境

厚生労働省の統計によると，2020 年９月末まで，日本には中国語の対応が可能な介護事業所が 374 ヶ所ある[文12)]。そのうち，115 ヶ所はデイサービスセンター，100 ヶ所は訪問介護または居宅介護支援事業所，74 ヶ所は特別養護老人ホーム，それ以外はグループホーム，小規模多機能，有料老人ホームなどの介護施設である。

在日中国人高齢者の生活習慣や文化背景は日本人高齢者と異なるため，彼らの介護環境に対するニーズも日本人高齢者と異なっていると考えられる。これらの背景から，中国語の対応が可能な介護施設の現状，空間特性と利用者の滞在状態を示すことは重要である。その故に，本節では，最も多い中国語の対応が可能な施設としてデイサービスセンターを対象に，アンケート調査と現地行動観察を通して，在日中国人高齢者の介護環境を明らかにする。

5.1　アンケート調査から得られた中国語の対応が可能なデイの実態

5.1.1 施設の運営の状況

115 ヶ所の中国語の対応が可能なデイへのアンケートのうち有効回答数は 35 ヶ所であり，有効回収率は 30.4% である。

施設運営の概要とスタッフの人数を**図 5-1** に示す。半分以上の中国語の対応が可能なデイが 2010 年以降の 10 年間に設置されたことが分かった。運営主体は,「営利法人」の 26 ヶ所が最も多い。ほとんどの施設は併設機能がない独立型である。日定員について，11～20 人の定員のデイが最も多く 19 ヶ所である。スタッフの人数について，21 ヶ所のデイは常勤スタッフが 5 人以内である。また，中国語が話せるスタッフの人数は，常勤と非常勤の合計が 3 人未満のデイが最も多く 20 ヶ所である。

5.1.2 施設建物の状況

1）建物の概要

建築形態について，22 ヶ所のデイは民家，オフィス，ホテルなどの別用途から転用された。延床面積は，100 ㎡以下のデイが最も多く，13 ヶ所である。使用階数は 1 階のみの低層階が最も多く，29 ヶ所である。(**図 5-2**)

建築空間について,18 ヶ所は戸外空間(テラス,中庭,前庭，菜園など）がなく，利用者が主に室内で活動している。キッチンの種類は，食堂と一体のオープンキッチンが 20 ヶ所,壁で周囲と仕切っているクローズドキッチンは 15 ヶ所である。また，静養室とデイルーム・食堂といった共用空間のパーティションの種類は，**図 5-3** に示すよう，24 ヶ所のデイがカーテンで仕切り，7 ヶ所が引き戸で仕切り，4 ヶ所が壁で仕切る。

2）現在施設建物の使い方で不便な点

現在建物の使い方で困っていることを**図 5-4** に示す。「日中過ごす場所が 1 室しかない，静かな環境が確保できない」が最も多く，次いで,「周囲に公園等の施設が少ない」「立地の交通が不便」「空間が狭い／収納場所が足りない」「クローズドキッチンではない」などの順である。「日中過ごす場所が 1 室しかない，静かな環境が確保できない」について，アンケート調査によって，多くの中国語の対応が可能なデイは休憩／静養空間とデイルーム・食堂などの共用空間を 1 室で共有していて，高齢者が休憩する時安静な環境が確保できないということである。「クローズドキッチンではない」について，中国料理を作っている時油煙または香辛料の匂いが強く，換気性能が不足な場合，油煙と香辛料の匂いが部屋に充満するためである。

5.1.3利用者の属性

以下の分析では，デイを利用する「在日中国人高齢者」を中国帰国利用者と在日中国人利用者に分ける。アンケートを取った 35 ヶ所のデイの中で,中国帰国利用者または在日中国人利用者がいるデイは 26 ヶ所である。その中，4 ヶ所には中国帰国利用者のみがいて，7 ヶ所には中国帰国利用者と在日中国人利用者の両方がいて，それ以外の 15 ヶ所には中国帰国利用者または在日中国人利用者が日本人利用者と混在している（**図 5-5**)。

1）在日中国人高齢者の人数，年齢と要介護度

全てのデイの中国帰国利用者の人数は合計 365 人であり，在日中国人利用者は合計 61 人である。利用者の人数

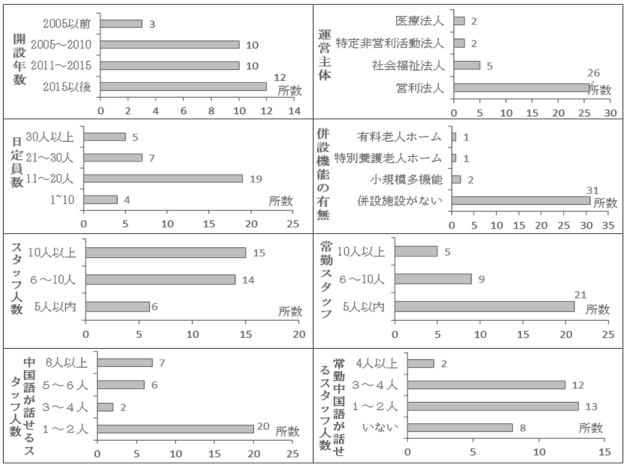

図 5-1　35 ヶ所中国語の対応が可能なデイの運営の概要

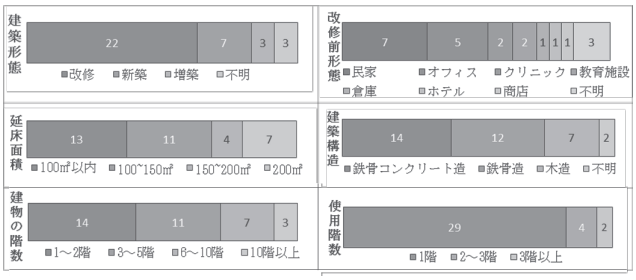

図 5-2　35 ヶ所中国語の対応が可能なデイの運営の概要

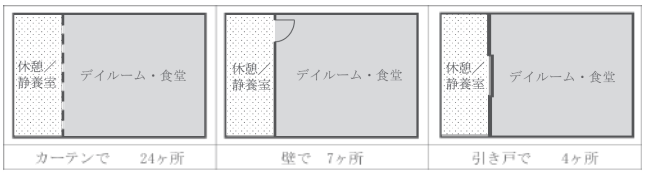

図 5-3　35 ヶ所中国語の対応が可能なデイの静養室とデイルーム・食堂といった公共空間のパーティション種類

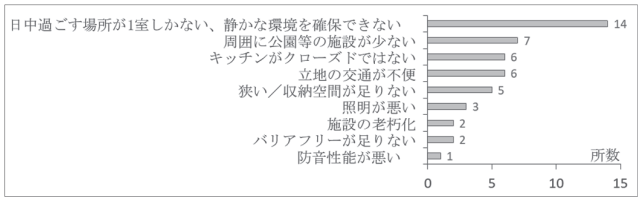

図 5-4　現在施設建物の使い方で不便な点

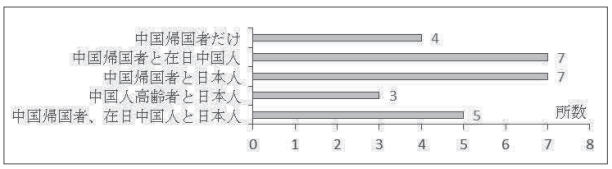

図 5-5　26 ヶ所のデイの利用者の組み合わせ

図 5-6　中国帰国利用者と在日中国人利用者の人数，年齢と要介護度

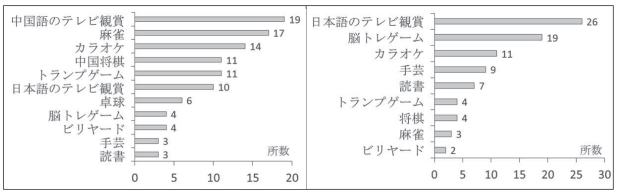

図 5-7　中国帰国者と在日中国人利用者娯楽活動と日本人利用者の娯楽活動の比較

規模から見ると，13 ヶ所は中国帰国利用者と在日中国人利用者の人数が 10 人以内であり，この 13 ヶ所は主に日本人向けのデイであり，中国帰国利用者と在日中国人利用者が少ない。中国帰国利用者と在日中国人利用者の人数が 20～30 人のデイは３ヶ所で，30 人以上のデイは５ヶ所，この８ヶ所のデイは主に中国帰国利用者向けのデイであり，日本人利用者がいないまたは少ない（**図 5-6**）。

また，全てのデイは在日中国人利用者の人数は 10 人以下であり，中国帰国利用者の人数が 1～10 人のデイは 10 ヶ所，11～20 人のデイは６ヶ所，30 人以上のデイは５ヶ所である（**図 5-6**）。つまり，現在中国語の対応が可能なデイは在日中国人が少なく，中国帰国利用者が比較的多く利用している。

図 5-6 に示すように，利用者の年齢について，中国語の対応が可能なデイの中国帰国利用者と在日中国人利用者は主に 76～80 歳の高齢者であることが分かった。また，全てのデイの中国帰国利用者の平均要介護度は 2.2 であり，在日中国人の要介護度は 1.8 である。

2）利用者の一日の娯楽活動

利用者の一日の娯楽活動について，**図 5-7** に示すように，中国帰国利用者と在日中国人利用者の活動の種類の上位５位は中国語テレビ観賞，麻雀，カラオケ，中国の将棋，トランプゲームであり，それ以外は日本語テレビ観賞，卓球などの活動をする人も多い。日本人利用者の活動種類の上位５位は日本語テレビ観賞，脳トレ，カラオケ，手芸，読書であり，それ以外は，トランプゲーム，将棋する人も多い。

日本人利用者と比べ，麻雀，中国の将棋，卓球をする人が多いことは中国帰国利用者または在日中国人利用者の活動の特徴と考えられる。

5.1.4　異文化介護における問題

アンケート調査により，言語の不同，生活習慣の不同，文化背景と価値観の不同は高齢中国帰国利用者と在日中国人高齢者にとって主な介護で困っている問題である。

1）言語の問題

多くの高齢中国帰国利用者または在日中国人利用者は日本語が話せない，さらに，中国の方言しか話せない高齢者もいる。中国には方言が多く，中国帰国利用者と在日中国人利用者が中国のさまざまな地域から来日し，彼らの多くは標準中国語が話せなく，方言のみ話せることが影響していると考えられる。

調査によると，すべてのデイは日本語と中国語両方の言語のサービスを提供している。しかし，多くのデイには中国語が話せるスタッフが少ないため，彼らが在勤しない時，他の日本人スタッフと中国帰国利用者または在日中国人利用者は交流できなくなり，困ることが生じる。言語の問題の故に施設内で出会う日本人利用者とのコミュニケーションが上手く図れないため，利用者の輪のなかに入れずに，介護施設のなかでかえって孤立してしまい，サービスの利用を拒否してしまうケースも生じている。

2）生活習慣の不同

生活習慣の不同について，「食事の問題」は一番重要な点であり，それ以外は「喋り方の不同」「衛生習慣の不同」である。「食事の問題」は，人にとって，家庭の味，暮らしている地域の味，民族の味など，生まれ育ったところの気候や環境によって，食習慣や味覚はそれぞれ異なる。特に，味覚に関してはその傾向が強く見られている。多くの中国帰国高齢利用者と在日中国人利用者はしっかりと味付けされた中華料理のほうを好み，そのような料理を希望する。調査によると，ほとんどのデイは日本料理と中国料理をとともに提供している。「喋り方の不同」について，高齢者中国帰国利用者と在日中国人利用者は声が高いと指摘されている。

3）文化背景と価値観の不同

文化背景と価値観の不同について，複数選択回答をした結果を見ると，「サービスへの理解の不同」が最も多く，次いで，「プライバシーへの態度の不同」「娯楽文化の不同」「祝日の不同」「人間関係文化の不同」「お風呂文化の不同」の順である。

「サービスへの理解の不同」について，異なる文化背

景で育った人々は，介護サービスへの理解が異なっている。例えば，日本人利用者と比べ，ルールに従わない，融通を求める傾向がある。「プライバシーへの態度の不同」は，中国帰国利用者と在日中国人利用者プライバシーの重視程度が低い。娯楽文化の不同」は，仮に世代は同じでも，文化や風習，育った国・地域によって，子供ころに習った歌や踊り,遊びが全く異なっている。日本人利用者にとって「普通」であっても中国帰国利用者または在日中国人利用者にとってそれは全くの異文化である。

5.2　行動観察調査調査から得られた中国語の対応が可能なデイの空間特性と利用者の滞在状態

5.2.1調査対象施設の概要，建築形態と空間の平面配置

本研究の調査対象施設は，規模，定員と利用者の平均年齢や要介護度が比較的類似している大阪市内の中国人向けのデイ１ヶ所（以下，DS－A）と，日本人向けのデイ１ヶ所（以下，DS－B）である。２つのデイは日定員が同じく 20 人であり，現在の登録利用者は DS－A が 45 人，DS-B が 33 人である。利用者の年齢層は，DS－A と DS－B が同じく 75～84 歳の利用者が一番多い。平均要介護度は，DS－A が 2.3，DS－B が 2.4 で同じ程度ある。利用者の地域分布について，DS－A の利用者は大阪府の全域であり，DS－B の利用者は近くの２つの区のみである。また，DS－A は併設施設がなく,DS－B は小規模多機能と老人ホームのような併設施設がある（**表 5-1**）。

施設の建築形態について，DS－Aはオフィスから転用され,DS－Bは新築であった。建築面積はDS－Aが115㎡で，DS－ABが137㎡である。また，静養室とデイルーム・食堂といった公共空間のパーティション種類は,**図5-8**に平面図を示すように,DS－AとDS-Bは同じく,カーテンである。また，DS－Aは浴室が二つあり，DS-Bは機械浴槽，盤浴と足湯の浴室を含め四つある。テーブルについて，DS-Aは麻雀専用テーブルが１点，７人掛けテーブルが１点，４人掛けテーブルが２点,３人掛けテーブル1点を設置しており，利用者の固定席がない。DS-Bは４人掛けテーブルが６点を設置しており,利用者の固定席を設置している。

5.2.2調査日の対象施設の概要

調査日の概要について，DS-Aの一日目の利用者は12人，平均年齢が78.1歳，平均要介護度が2.2であり，二日目の利用者は９人，平均年齢が76.8歳，平均要介護度が2.3である。DS-B の一日目の利用者は9人，平均年齢が85.1歳，平均要介護度が2.7であり，二日目の利用者は10人，平均年齢が79.5歳，平均要介護度が2.2である（**表5-2**）。

5.2.3調査日二つの施設における利用者の行動

両施設の利用者の２分間以上に持続する行動を注目し，記録した。これらの行動のうち，トイレ及び体操，

表 5-1　調査対象施設の概要

調査対象施設	DS-A	DS-B
開設年数	2014.08	2012.12
営業日	日曜日～金曜日	日曜日～土曜日
併設施設	なし	小規模多機能と有料老人ホーム
日定員	20人	20人
利用者の人数	45（男性 25，女性20）	33（男性9,女性24）
利用者の属性	中国帰国者と在日中国人	日本人
人数が一番多い年齢層	75-84歳（38人）	75-84歳（17人）
平均要介護度	要介護2.3	要介護2.4
スタッフ人数	9(常勤4，非常勤5)	18(常勤,非常勤15)
サービス言語	中国語・日本語	日本語
サービスの範囲	大阪府全域	近くの2つの区
建物形態	オーフィスから改修	新築
建築構造	鉄骨コンクリート	鉄骨コンクリート
使用階数	1	1
延床面積	115㎡	137㎡
キッチンの種類	オープンキッチン	クローズドキッチン

図 5-8　調査対象施設の平面配置図

表 5-2　調査日の対象施設の概要

調査対象施設	DS-A		DS-B	
調査日	2021.03.04	2021.03.08	2021.07.19	2021.07.21
現地調査の時間	9:00～15:30	9:00～15:30	9:00～16:00	9:00～16:00
調査日利用者の人数	12(女:5 男:7)	9(女:4 男:5)	9(女:6 男:3)	10(女:7 男:3)
調査日利用者の平均年齢	78.1	76.8	85.1	79.5
調査日利用者の平均要介護度	2.2	2.3	2.7	2.2
調査日利スタッフの人数	5(女:2 男:3)	4(女:2 男:2)	4(女:4 男:0)	5(女:5 男:0)
調査日のサービス言語	中国語	中国語	日本語	日本語

食事，おやつなどの団体活動を除き，両施設の利用者または利用者同士間の行動の種類別，その行動を行った総人数別と総時間数を**図5-9**に示す。調査日２日間においてDS-Aの利用者の総人数が21であり，DS-Bが19人である。行動の種類から見ると，DS-AとDS-Bの行動の種類の数量が基本的に同じであるが，娯楽行動の種類は大きく異な

っている。DS-Aはお主な娯楽行動が中国語のテレビ観賞，麻雀，麻雀の観戦，トランプゲーム，カラオケ，中国の将棋，卓球などの行動であり，DS-Bは主に日本語のテレビ観賞，手芸及びマイカレンダーの作成，計算，間違い探しなどの脳トレである。また，DS-Bはウオーターベット，遠赤外線ドーム，マサージなどの多種類の筋力低下予防のマシンが設置しており，これらのマシンを利用する利用者も多い。

行動を行う人数別でみると，DS-Aにおいては行う利用者の数が上位３位の活動は中国語のテレビ観賞，麻雀，入浴である。DS-Bは上位３位の行動が日本語のテレビ観賞，入浴，マイカレンダーの作成である。行動を行う時間の長さ別でみると，DS-Aは時間の長さが上位３位の行動は麻雀，中国のテレビ観賞，トランプゲームである。DS-Bにおいては上位３位の行動が日本語のテレビ観賞，マイカレンダーの作成，午睡である。また，DS-Aにおい

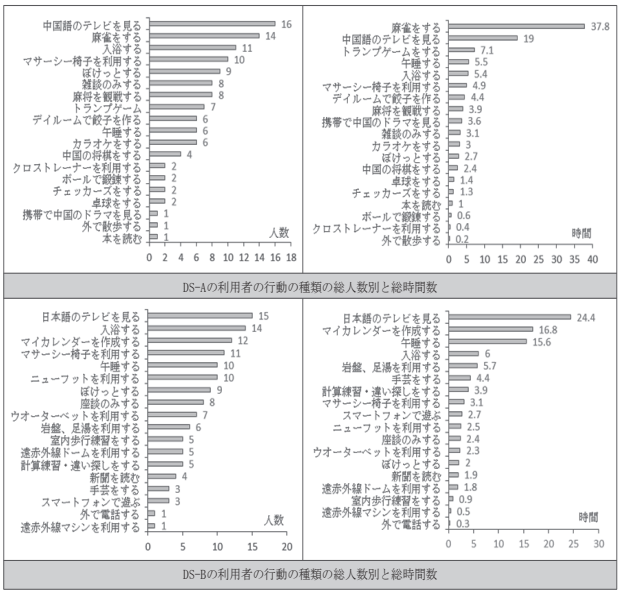

図 5-9　DS-A と DS-B の利用者の行動種類の総人数と総時間数

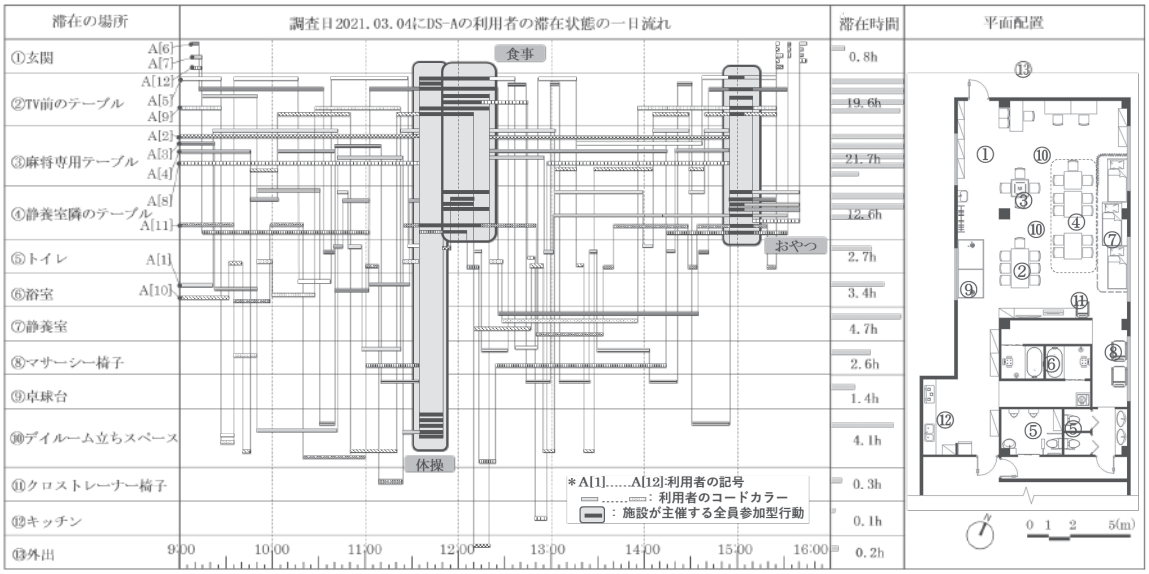

図5-10　調査日2021.03.04にDS-Aの利用者の滞在状態の一日の流れと空間滞在特性

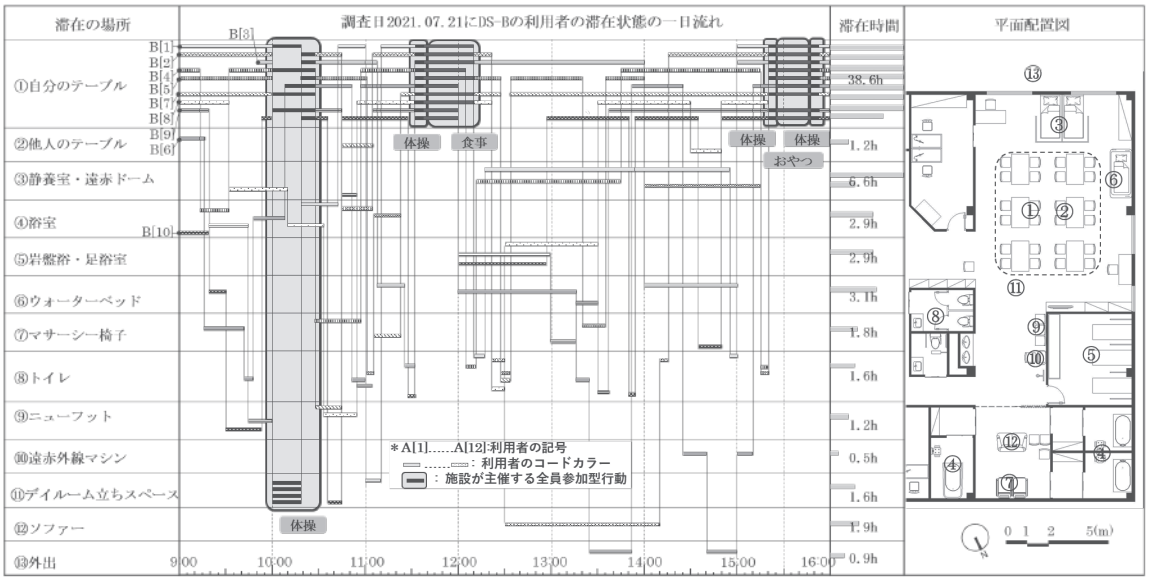

図5-11　調査日2021.07.21にDS-Bの利用者の滞在状態の一日の流れと空間滞在特性

て人数が一番多い活動が中国語のテレビ観賞であるが，時間が一番長い行動が麻雀であり，麻雀の時間の長さはテレビ観賞のほぼ２倍になる，37.8時間である。DS-Bにおいては人数が一番多い行動と時間が一番長い行動が同じく，日本語のテレビ観賞である。

5.2.4　利用者の一日の生活展開の概要と空間利用特性

終日観察調査によって得られた記録から，両施設での利用者の一日の滞在場所，様態，時間などを１分毎に抽出し，一日の生活展開の実態を**図5-10**と**図5-11**（前のページ）に示す。

両施設において，利用者は体操や食事，おやつなどの全員参加型の活動以外の自由時間帯に，興味のある場所に移動し，一日の滞在場所・行動に軌跡が生じた。DS-Aでは全員参加型の団体活動がラジオ体操，食事とおやつがあるが，DS-Bではそれ以に外食事前の腕体操，おやつ前後の指体操と口体操もある。

施設の空間利用特性について，滞在時間の長さに基づいて，DS-Aの利用者は麻雀専用テーブルでの滞在時間が一番長い，次いでテレビ前のテーブル，静養室隣のテーブル，静養室，立ちスペース，浴室，トイレなどの順である。DS-Bは自分のテーブル，静養室・遠赤ドーム，ウォーターベッド，岩盤浴・足湯室，浴室などの順である。両施設の空間利用の違いは両施設の利用者が娯楽行動及び施設の設備配置が異なるためと考えられる。DS-Aでは12人の利用者のうち９人が麻雀を行い，それ以外６人が麻雀を観戦し，その為，麻雀専用テーブルでの滞在時間が一番長い。麻雀以外のテーブルでできる行動（テレビ鑑賞，将棋，トランプゲームなど）はテレビ前のテーブルまたは静養室隣のテーブルで行っている。DS-Bでは利用者は自分の固定席があり，さらに，主な娯楽活動が他人との交流必要がない脳トレ活動（マイカレンダーの作成，計算練習，違い探しなど）であるため，自分のテーブルでの滞在時間が一番長い。

6. まとめ

本稿では，アンケート，インタビュー及び現地調査を通して，在日中国人高齢者の住環境の実態を明らかにした。下記に結果をまとめる。

6.1　住宅環境，社会環境，近隣環境

（1）20人の調査対象者全員は1980年代以降来日し，来日後，平均引っ越し回数は２回であった。彼らの多くは，日本に来る前は経済状態が悪い農民であり，また教育水準が低かった。来日後，半数が日本で仕事をしておらず，工場でアルバイトをしていた。また，日本語が話せない人が多かった。

（2）住宅環境について，13 人の対象者はバリアフリーがない市営や府営住宅などの公営住宅に住んでいる。また，住宅環境に対する不満足点や生活上の不便な点は，「バリアフリーがない」が最も多く，バリアフリーの改修に関する情報を把握していなかった。

（3）対象者の多くは日本人の友人がなく，中国人の友人も少ない。また社会活動に参加していなかった。社会的つながりの程度がやや弱い（６人），弱い（６人）の人の多くは，家族・親戚や，中国語を話すことができるヘルパー・デイサービスに限定されていた。

（4）近隣環境について，外出の頻度と近隣の行動から，要介護度も影響するが，「アクティブ」「ややアクティブ」タイプは，家族や隣人や友人との交流で外出している割合が高かった。またアンケートによる主な近隣環境に関する重要視するポイントは「隣人との関係」を挙げる人が最も多かった。

6.2　介護環境

（1）郵送アンケート調査により，35 ヶ所の中国語の対応が可能なデイの多くは 2010 年以後に設置され，運営主体が「営利法人」である。ほとんどの施設は併設機能がない独立型で，日定員が 11～20 人のデイが最多である。また，半分以上のデイは常勤と非常勤中国語が話せるスタッフの人数が２人以下である。

（2）35 ヶ所のデイの 26 ヶ所には，中国帰国利用者と在日中国人利用者がいる。その中，11 ヶ所には中国帰国利用者と在日中国人利用者のみがいる。すべてのデイは在日中国人利用者が少なく，中国帰国利用者が比較的多い。また，中国帰国利用者と在日中国人利用者は主に 76～80 歳の高齢者である。平均要介護度は中国帰国利用者利用者が 2.2 であり，在日中国人が 1.8 である。

（3）35 ヶ所のデイの 22 ヶ所は民家，オフィス，ホテルなどの別用途から転用された。延床面積が 100 ㎡以下のデイは最も多く，13 ヶ所である。18 ヶ所が戸外空間がなく，24 か所が静養室とデイルーム・食堂といった公共空間がカーテンで仕切りをしている。

（4）異文化介護の問題について，言語の不同，生活習慣の不同，文化背景と価値観の不同は高齢中国帰国利用者と在日中国人高齢者にとって主な介護で困っている問題である。

（5）行動観察調査により，中国人向けのデイと日本人向けのデイでは，利用者の娯楽活動が大きく異なっている。中国人向けのデイは主に中国語のテレビ観賞，麻雀，麻雀の観戦，トランプゲーム，カラオケ，中国の将棋，卓球である。

（6）空間利用特性について，場所の滞在総時間数により，中国人向けのデイは利用者が麻雀専用テーブルでの滞在時間が一番長い，次いでテレビ前のテーブル，静養室隣のテーブル，静養室，立ちスペース，浴室などの順である。日本人向けのデイは自分のテーブル，静養室・

遠赤ドーム，ウォーターベッド，岩盤浴・足湯室，浴室などの順である。２つのデイの空間利用特性の不同は両施設の利用者が娯楽行動及び設備配置が異なるためと考えられる。

最後に，在日中国人高齢者のエイジング・イン・プレイスの目標を達成するために，住環境の改善について以下の視点から考察する。(1)住宅環境について，在日中国人高齢者は見守りや介護が必要になった後在宅生活を継続するために，バリアフリーやキッチン換気などの住宅改修のサポートと中国が話せる在宅生活支援業者や訪問介護員が必要である。(2)近隣環境について，歩行能力が低下した高齢者，自宅の近隣での生活利便性が低い高齢者，特に日本語が話せない高齢者にとって，買物，医療，交通などの近隣での生活支援が必要である。(3)社会環境について，在日中国人高齢者が家族や友達以外の豊かな社会的つながりを築くために，地域や社会団体は彼らが参加できる活動を行う必要がある。(4)介護環境について，中国人向けの介護施設は，中国人高齢者の生活習慣を考慮し，彼らの行動の特徴や娯楽活動に応じて室内介護環境を設ける必要があると考えられる。

＜謝辞＞

調査にご協力いただいた施設の利用者・事業者・管理者等の皆様に厚く御礼申し上げます。

＜注＞

1) 昭和20年８月９日時の年齢がおおむね満13歳未満であった中国残留日本人は残留孤児と呼ばれる。昭和 20 年８月９日時の年齢が満 13 歳以上であった中国残留日本人は男女を含めて「残留婦人等」と呼ばれる。ほとんどが女性であるため「残留婦人」と称される場合もある[文13)]。

2) 永住帰国旅費（国費）の支給対象者は残留邦人本人とその配偶者，20 歳未満の実子又は身体等に障害のある実子。「中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律」第６条，支援法施行規則第 10 条。

3) 帰国者数に関する正確な統計は行われていないが，帰国者１人当たりの日本在住の家族数は，国費同伴，呼び寄せ家族を含めて孤児が 9.4 人，婦人等が 11.8 人となっている[文14)]。

4) 米国疾病予防管理センターは，エイジング・イン・プレイス（Aging in Place）を高齢者が年齢，収入，能力レベルにかかわらず，住み慣れた地域で安全かつ自立して快適に暮らすことと定義している[文15)]。

5) 中国では，1955 年から，計画経済と配給制度を運営するため，全国の人口を農業人口と非農業人口に区別する戸籍制度が設定された。1990 年代前，農民は自由に都市に移行できず，収入又は福祉の面で都市の居民が大きく異なっていた。ほとんどの農民は低所得者であった。

6) 厚生労働省の統計により，令和２年９月 30 日まで，日本全国には，中国語対応が可能な介護事業所数が 374 か所ある。大阪府は 34 か所がある。多くの介護事業所は中国帰国者又は在日中国人向けの事業所である[文12)]。

7) 国土交通省により，日本の都市住区基幹公園の種類を街区公園，近隣公園，地区公園と分類する[文16)]。

＜参考文献＞

1) e-Start，法務省，政府統計総合窓口，在留外国人統計（旧登録外国人統計），2019 年６月.

2) 藤沼敏子：年表：中国帰国者問題の歴史と援護政策の展開，中国帰国者定着促進センター紀要６号，1998.5

3) 厚生労働省：中国残留邦人の状況（令和元年８月 31 日現在）

4) 厚生労働省：中国残留邦人等実態調査結果の概要，2015

5) 武井民典，荒木兵一郎，亀谷義浩：外国人高齢者の居住環境に関する研究 ：「在日韓国・朝鮮人高齢者の特別養護老人ホームにおける居住環境に関する研究」，日本建築学会近畿支部研究報告集，計画系，pp，181-184，2001

6) 筧政憲，小松尚：外国人居住者の居場所形成における空間的課題―A 団地において自主建設されたものの，撤去された店舗群の分析，日本建築学会計画系論文集，Vol.79，No.704，pp.2165-2172，2014.10

7) 北原玲子，大月敏雄：東京都北区のバングラデシュ国籍在留外国人の居住環境に関する研究-国際労働力移動による連鎖移民が受け入れ国の集住地に及ぼす影響，日本建築学会計画系論文集，第 79 巻，第 698 号，pp.873-882，2014.4

8) 熊原秀晃，西田順一：中国帰国者における体力および生活の質-帰国者支援・交流センター通所者の現状，厚生の指標，第 61 巻，第５号，pp.31-138，2014.5

9) 王榮，渋谷努：中国帰国者の介護問題から見た在住外国人高齢者への介護支援の現状と課題，中京大学学術情報，社会科学研究，38(2)，pp.2-18　2018.3

10) Bekhet, A. K., Zauszniewski, J. A., and Nakhla, W. E.: Reasons for relocation to retirement communities: A qualitative study. Western Journal of Nursing Research, 31, pp.462–479, 2009

11) Mari Smith.: The New Relationship Marketing: How to Build a Large, Loyal, Profitable Network Using the Social Web. Hardcover – Illustrated, pp.75-79, 2011.10

12) 厚生労働省社会・援護局：中国語の対応が可能な介護事業所一覧，（令和２年９月３０日時点）

13) 厚生労働省：中国残留孤児白書，1987

14) 厚生労働省：中国帰国者生活実態調査の結果，2005.3

15) U.S. Centers for Disease Control and Prevention: Public health terms for planners&planning terms for public health professionals. https://www.cdc.gov/healthyplaces/terminology.htm（Accessed 2020.10. 02）

16) 国土交通省，都市局：都市公園の種類 https://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p_toshi/syurui/（参照 2020.10.15）